

戦没者氏名	戦没年(年号)	戦没場所
年号	月	日
塚原政一郎	一八九五(明28)	遼東半島旅順口
一九〇四年	一九〇四年	盛京省首山堡
一九〇五年	一九〇五年	盛京省首山堡
(ク)38	(ク)38	盛京省三城子山
一九〇五(ク)38	(ク)38	劉三家子野戰病院
一九〇六年	8 3 3 2 10 8 8 8	十里河戰地定立病院
30 16 14 11 11 31 31 30 22	30 16 14 11 11 31 31 30 22	戰傷死(自宅)
鉄嶺兵站病院		

(注)「桜木」には該当者がありません。

年表

年号	国・県内でのできごと	町内でのできごと
二億四〇〇〇万年前	結晶片岩類堆積 (脊振・天山山塊の三郡變成岩類)	
一億七五〇〇万年前	東松浦地方の花崗岩おし上がる (脊振・天山山塊)	
三〇〇万年前前後	人類が誕生する	
二〇〇万年前前後	日本列島の骨格ができる	
三〇〇万年前	ナウマン象などの大型獸が移動してくる 阿蘇山が大噴火し、県内を火碎流が覆う マンモスが現れる	
五万年前頃	日本に人類が移動してくる	
三万年前頃	脊振・天山山地や山麓部、上場台地などに 人類が現れる	
二万年前頃	小城町・三日月町・牛津町の山麓・丘陵上 に人類生活の痕跡	
前一万年頃	現在とほぼ同じ日本列島が形成される 押型文土器がつくられる	
前八〇〇〇年頃	県内でも集落が増加する	
前五〇〇〇年頃	佐賀市久保泉丸山遺跡などで朝鮮半島系の	
前四〇〇〇年頃		

年 表

（後半 三世紀後半 四世紀末）	吉野ヶ里遺跡など各地の環濠集落が衰滅する 弥生時代が終わり、古墳時代がはじまる 佐賀平野・唐津平野で大型の前方後円墳が 築造され始める。佐賀市鉢子塚古墳できる 脊振山頂で祭祀が行われる？ 肥前水上「ユスマラ沈輪」乱を起こし平定さ る。このころ朝鮮半島侵攻 倭軍、海を渡つて百濟・新羅・高句麗と戦う 倭王、中國東晉へ使いをおくる 倭王讃、宋へ使いを送り「安東大將軍倭國 王」の称号を授かる
三四六 三九一 四一三 四二一 四二八	大和町船塚前方後円墳できる 倭王武（雄略天皇）、宋へ使いを送る このころ須恵器の製法がつたわる 三田川町・上峰町目達原古墳群できる 筑後国造磐井、大和王権に反乱
五六二 五六三 五六八 五六九 五六四	百濟の聖明王、仏教を伝える（五五二説も ある） 任那官家、新羅に滅ぼされる 川上川与止日女神社鎮座（二月朔日）世田 姫というこの河にます神を祀る。阿蘇山噴火 白鬚神社祭典
五七八 五七四	蘇我馬子、物部氏を滅ぼし実權をにぎる

上恒安など北部で集落が形成され始める。

西暦	年号	国・県内のできごと	町内でのできごと
前二〇八年頃		支石墓が多数営まれる 朝鮮半島から多数の人々が移住（三日月町土生遺跡など） この頃から佐賀・福岡平野で成人用の甕棺墓が営まれる	
前一〇八年		前漢が朝鮮半島に樂浪郡など四郡を設置 樂浪郡を通じた中国との外交が始まり、中國文化が伝わる	
一〇七	五七	この頃日本（西日本）は一〇〇余国に分かれていた（『漢書地理志』） 中国後漢の光武帝、倭奴国王に金印を授ける（『後漢書東夷伝』） 倭国王中国の皇帝に使いを送る（『後漢書東夷伝』）	
一三九	一二〇	倭女王卑弥呼、中国の魏に使いを送り「親魏倭王」の金印を授かる（『魏志倭人伝』） この頃、吉野ヶ里遺跡の最盛期	この頃町内北部が陸化する
一五〇	二六六	卑弥呼死に、国内乱れるが、卑弥呼の宗女奄与を女王に共立し国内安定 倭女王（奄与）、中国の西晋に使いを送る（『晋書』）	
三世紀中		大和地方に強大な大和王権が成立	

年 表

西暦	年号	国・県内でのできごと	町内でのできごと
五九三		聖德太子、推古天皇の摂政となる	
六〇四		十七条憲法を制定	
六〇九	大化	佐賀市久保泉町、邑主祠を立て江州の白鬚の神を奉ず 花納丸古墳文書	
六二六	元	筑紫太宰府を設置 大化改新はじまる 難波京へ遷都	
六一六	二	革新詔發布	
六二六	三	現在の多久、高来の郷、高来の駿として軍事交通などの要地となる	
六六三	二	白村江にて日本百濟軍と唐・新羅軍と戦い 日本、百濟軍大敗す。この後日本は朝鮮半島とは違った国を主張しはじめる	
六六四	三	太宰府政庁が設置され、対馬、壹岐筑紫などに防人、烽を置き、筑紫に水城を造る	
六六五	四	基肄城・大野城などの山城を築く 佐賀市帶隈山や前原市雷山に神籠石築かれる	
六九〇	四	火(肥)国が肥前国と肥後国とに別れる	
七〇一	四	大宝津令成立、翌年施行	
七〇九	二	塩田川水系の丹生神社、大和国芳野丹生村長 丹生川上神社より勧請	
七一〇	一	平城京(奈良)へ遷都	

年表

西暦	年号	国・県内でのできごと
七六一	天平宝寧五	筑紫觀世音寺に戒壇を建立
七七四	宝龜五	肥前椅寺(大願寺廢寺)の梵鐘が鑄造される
七九三	延曆一二	平安京(京都)へ遷都
七九四	一一三	9・9 勅して神宮寺を立つ
七九六	一五	前年不作のため田租免ぜらる(全一力国)
七九九	二三	小城の雲海山岩藏寺が建立
八〇三	一八	最澄、天台宗をつたえる。翌年空海、真言
八〇五	二四	宗をつたえる
八〇六	一五	旱ばつと疫病のため農民困窮、二力年田租
八一〇	弘仁元	免ぜらる。
八一三	大同元	2・柿本弟兄肥前国郡司に任ず
八一五	承和五年	新羅人一一〇人肥前小值賀島に来着、島民
八一八	四	と戦う
九五一～一〇四六	(注・「僧仁海による創建」と旧『久保田町史』は記しているが、仁海の生没は、	太宰府の鎮守府將軍俊仁の命により、病流行防除のため比叡山延曆寺の末寺として三学寺が創建される。

西暦	年号	町内でのできごと
七六一	天平宝寧五	筑紫觀世音寺に戒壇を建立
七七四	宝龜五	肥前椅寺(大願寺廢寺)の梵鐘が鑄造される
七九三	延曆一二	平安京(京都)へ遷都
七九四	一一三	9・9 勅して神宮寺を立つ
七九六	一五	前年不作のため田租免ぜらる(全一力国)
七九九	二三	小城の雲海山岩藏寺が建立
八〇三	一八	最澄、天台宗をつたえる。翌年空海、真言
八〇五	二四	宗をつたえる
八〇六	一五	旱ばつと疫病のため農民困窮、二力年田租
八一〇	弘仁元	免ぜらる。
八一三	大同元	2・柿本弟兄肥前国郡司に任ず
八一五	承和五年	新羅人一一〇人肥前小值賀島に来着、島民
八一八	四	と戦う
九五一～一〇四六	(注・「僧仁海による創建」と旧『久保田町史』は記しているが、仁海の生没は、	太宰府の鎮守府將軍俊仁の命により、病流行防除のため比叡山延曆寺の末寺として三学寺が創建される。

年表

一一九一 建久二	一一八六 二	一一八四 元暦元	一一八五 文治元	一一八二 寿永元	一一八三 二元	一一八〇 治承四
千葉常胤・源頼朝より小城郡晴氣の地頭職をうける	7.7 賴朝・諸国の現在謀叛人の跡以外の地頭職の停止を命じる	4. 源頼朝、伊豆にて挙兵	4. 源頼朝、牛尾山に神田を寄付す	4. 源頼朝、牛尾山に神田二〇余町を寄進す。この時、久保田が神田となつたと考えられる	○ 平家が壇の浦で滅亡すると、源義経、牛尾別当坊に旗並びに黄金を奉納す	○ 平家が壇の浦で滅亡すると、源義経、牛尾別当坊はその衆徒を率いて出陣、武功をあらわす
8. 甘南備峯城主高木太郎宗家、鎌倉幕府の命により肥前守兼拒押使職となり、初めて全肥前に号令す	11.29 源頼朝守護・地頭設置の勅許を得る	5.24 院庁は大宰府の在庁官人や神崎荘の荘官に、窪田高直らの乱行に厳重な処置を行うよう命じた	8. 源頼朝、海氏（久保田は海宿禰の荘園だった）を追い、功臣窪田太郎高直を窪田荘の地頭に推す	8. 源頼朝が豊前、筑前の平家を討つた時、牛尾別当坊はその衆徒を率いて出陣、武功をあらわす	○ 平家が壇の浦で滅亡すると、源義経、牛尾別当坊に旗並びに黄金を奉納す	○ 窪田因幡守藤原利常が快方に香椎宮を建立。平教盛、嘉瀬津の船長荒木入道秉觀を西国三三国の船問職に任じた

西暦	年号	国・県内でのできごと	町内でのできごと
一二世紀頃		佐賀市北川副町から川副町にかけて川副荘が成立	領となる
一二二六	大治元	三世紀末には千五百町の大荘園に発展する諸国の漁網を捨てさせ、殺生禁斷を命ず	
一二二七	大治元	神崎荘、鯨魚珠を白河法皇に献上（大日本史）	
一二三三	長承二	平忠盛、院宣と称し宋商船を神崎荘へ迎え、貿易の利益を独占する	
一二三六	大治元	花山院家忠、牛尾別当坊を再興し、護国神宮寺と改称。北山の峰を開き、入峰修行す	
一二五七	保元二	日向太郎通良が反乱。平清盛は同家貞を派遣して追討させる	
一二五九	平治元	この頃から脊振山周辺で僧侶の活動盛んになる	
一二六二	仁安二	9.19 肥前・肥後・出雲等大掌会雑物を献ず。肥前国進唐錦一段銀七〇両 芳陶沙	
一二六七	応保二	2.1 平清盛太政大臣となる	
一二七六	安元三	○ 窪田因幡守藤原利常が快方に香椎宮を建立。平教盛、嘉瀬津の船長荒木入道秉觀を西国三三国の船問職に任じた	

年 表

西暦	年号	国・県内のできごと	町内 のできごと
二二九二	三	鎌倉幕府の成立(源頼朝、征夷大将軍就任)	
二二九六	七	武藤資頼、大宰少弐に任せられ、肥前、筑前	
二二〇五	二	壱岐、豊後、対馬の五州の兵馬の権を握る	
二二一二	二	綾部四郎通俊 鎌倉八幡の神靈を勧請した	
二二一三	建暦	「綾部神社」を建立す	
二二一〇	建保	与賀神社が造営される。与賀荘の鎮守官となる	
二二四一	元	脊振村大字広滝字政所にて「二粒万倍」を祈願して「舍利会」が行われていた(彦山流記)	
二二三〇	寛喜	10. 小津東郷の末吉名一帯は常野、常々荒野の状態である	
二二四二	仁治		
二二四五	建久		
二二五九	正元		
一一七四	文永一	6.15 執権北條泰時没 於保の地頭於保宗益、肥前執行職につく	
一一七五	元	東国の土野田周防守大江清秀が三瀬に入山、觀音禪寺、杉神社を造営(のち三瀬氏に改姓)	
一一七六	文永の役。	文永の役。神代良忠増水した筑後川に浮舟の軍功	
一一七七	文永二		
一一七八	文永三		
一一七九	文永七		
一一八〇	文永三	○ 「河上宮仏神事等課役料免給主等注文案案」によると、快万名、得万名の名がある	
一一八一	文永七		
一一八二	文永三		
一一八三	文永七		
一一八四	文永三		
一一八五	文永七		
一一八六	文永三		
一一八七	文永七		
一一八八	文永三		
一一八九	文永七		
一一九〇	文永三		
一一九一	文永七		
一一九二	文永三		
一一九三	文永三		
一一九四	文永七		
一一九五	文永三		
一一九六	文永七		
一一九七	文永三		
一一九八	文永七		
一一九九	文永三		
一一九〇〇	文永七		
一一九〇一	文永三		
一一九〇二	文永七		
一一九〇三	文永三		
一一九〇四	文永七		
一一九〇五	文永三		
一一九〇六	文永七		
一一九〇七	文永三		
一一九〇八	文永七		
一一九〇九	文永三		
一一九一〇	文永七		
一一九一一	文永三		
一一九一二	文永七		
一一九一三	文永三		
一一九一四	文永七		
一一九一五	文永三		
一一九一六	文永七		
一一九一七	文永三		
一一九一八	文永七		
一一九一九	文永三		
一一九二〇	文永七		
一一九二一	文永三		
一一九二二	文永七		
一一九二三	文永三		
一一九二四	文永七		
一一九二五	文永三		
一一九二六	文永七		
一一九二七	文永三		
一一九二八	文永七		
一一九二九	文永三		
一一九三〇	文永七		
一一九三一	文永三		
一一九三二	文永七		
一一九三三	文永三		
一一九三四	文永七		
一一九三五	文永三		
一一九三六	文永七		
一一九三七	文永三		
一一九三八	文永七		
一一九三九	文永三		
一一九四〇	文永七		
一一九四一	文永三		
一一九四二	文永七		
一一九四三	文永三		
一一九四四	文永七		
一一九四五	文永三		
一一九四六	文永七		
一一九四七	文永三		
一一九四八	文永七		
一一九四九	文永三		
一一九五〇	文永七		
一一九五一	文永三		
一一九五二	文永七		
一一九五三	文永三		
一一九五四	文永七		
一一九五五	文永三		
一一九五六	文永七		
一一九五七	文永三		
一一九五八	文永七		
一一九五九	文永三		
一一九六〇	文永七		
一一九六一	文永三		
一一九六二	文永七		
一一九六三	文永三		
一一九六四	文永七		
一一九六五	文永三		
一一九六六	文永七		
一一九六七	文永三		
一一九六八	文永七		
一一九六九	文永三		
一一九七〇	文永七		
一一九七一	文永三		
一一九七二	文永七		
一一九七三	文永三		
一一九七四	文永七		
一一九七五	文永三		
一一九七六	文永七		
一一九七七	文永三		
一一九七八	文永七		
一一九七九	文永三		
一一九八〇	文永七		
一一九八一	文永三		
一一九八二	文永七		
一一九八三	文永三		
一一九八四	文永七		
一一九八五	文永三		
一一九八六	文永七		
一一九八七	文永三		
一一九八八	文永七		
一一九八九	文永三		
一一九九〇	文永七		
一一九九一	文永三		
一一九九二	文永七		
一一九九三	文永三		
一一九九四	文永七		
一一九九五	文永三		
一一九九六	文永七		
一一九九七	文永三		
一一九九八	文永七		
一一九九九	文永三		
一一九九〇	文永七		
一一九九一	文永三		
一一九九二	文永七		
一一九九三	文永三		
一一九九四	文永七		
一一九九五	文永三		
一一九九六	文永七		
一一九九七	文永三		
一一九九八	文永七		
一一九九九	文永三		
一一九九〇	文永七		
一一九九一	文永三		
一一九九二	文永七		
一一九九三	文永三		
一一九九四	文永七		
一一九九五	文永三		
一一九九六	文永七		
一一九九七	文永三		
一一九九八	文永七		
一一九九九	文永三		
一一九九〇	文永七		
一一九九一	文永三		
一一九九二	文永七		
一一九九三	文永三		
一一九九四	文永七		
一一九九五	文永三		
一一九九六	文永七		
一一九九七	文永三		
一一九九八	文永七		
一一九九九	文永三		
一一九九〇	文永七		
一一九九一	文永三		
一一九九二	文永七		
一一九九三	文永三		
一一九九四	文永七		
一一九九五	文永三		
一一九九六	文永七		
一一九九七	文永三		
一一九九八	文永七		
一一九九九	文永三		
一一九九〇	文永七		
一一九九一	文永三		
一一九九二	文永七		
一一九九三	文永三		
一一九九四	文永七		
一一九九五	文永三		
一一九九六	文永七		
一一九九七	文永三		
一一九九八	文永七		
一一九九九	文永三		
一一九九〇	文永七		
一一九九一	文永三		
一一九九二	文永七		
一一九九三	文永三		
一一九九四	文永七		
一一九九五	文永三		
一一九九六	文永七		
一一九九七	文永三		
一一九九八	文永七		
一一九九九	文永三		
一一九九〇	文永七		
一一九九一	文永三		
一一九九二	文永七		
一一九九三	文永三		
一一九九四	文永七		
一一九九五	文永三		
一一九九六	文永七		
一一九九七	文永三		
一一九九八	文永七		
一一九九九	文永三		
一一九九〇	文永七		
一一九九一	文永三		
一一九九二	文永七		
一一九九三	文永三		
一一九九四	文永七		
一一九九五	文永三		
一一九九六	文永七		
一一九九七	文永三		
一一九九八	文永七		
一一九九九	文永三		
一一九九〇	文永七		
一一九九一	文永三		
一一九九二	文永七		
一一九九三	文永三		
一一九九四	文永七		
一一九九五	文永三		
一一九九六	文永七		
一一九九七	文永三		
一一九九八	文永七		
一一九九九	文永三		
一一九九〇	文永七		
一一九九一	文永三		
一一九九二	文永七		
一一九九三	文永三		
一一九九四	文永七		
一一九九五	文永三		
一一九九六	文永七		
一一九九七	文永三		
一一九九八	文永七		
一一九九九	文永三		
一一九九〇	文永七		
一一九九一	文永三		
一一九九二	文永七		
一一九九三	文永三		
一一九九四	文永七		
一一九九五	文永三		
一一九九六	文永七		
一一九九七	文永三		
一一九九八	文永七		
一一九九九	文永三		
一一九九〇	文永七		
一一九九一	文永三		
一一九九二	文永七		
一一九九三	文永三		
一一九九四	文永七		
一一九九五	文永三		
一一九九六	文永七		
一一九九七	文永三		
一一九九八	文永七		
一一九九九	文永三		
一一九九〇	文永七		
一一九九一	文永三		
一一九九二	文永七		
一一九九三	文永三		
一一九九四	文永七		
一一九九五	文永三		
一一九九六	文永七		
一一九九七	文永三		
一一九九八	文永七		
一一九九九	文永三		
一一九九〇	文永七		
一一九九一	文永三		
一一九九二	文永七		
一一九九三	文永三		
一一九九四	文永七		
一一九九五	文永三		
一一九九六	文永七		
一一九九七	文永三		
一一九九八	文永七		
一一九九九	文永三		
一一九九〇	文永七		
一一九九一	文永三		
一一九九二	文永七		
一一九九三	文永三		
一一九九四	文永七		
一一九九五	文永三		
一一九九六	文永七		
一一九九七	文永三		
一一九九八	文永七		
一一九九九	文永三		
一一九九〇	文永七		
一一九九一	文永三		
一一九九二	文永七		
一一九九三	文永三		
一一九九四	文永七		
一一九九五	文永三		
一一九九六	文永七		
一一九九七	文永三		
一一九九八	文永七		
一一九九九	文永三		
一一九九〇	文永七		
一一九九一	文永三		
一一九九二	文永七		
一一九九三	文永三		
一一九九四	文永七		
一一九九五	文永三		
一一九九六	文永七		
一一九九七	文永三		
一一九九八	文永七		
一一九九九	文永三		
一一九九〇	文永七		
一一九九一	文永三		
一一九九二	文永七		
一一九九三	文永三		
一一九九四	文永七		
一一九九五	文永三		
一一九九六	文永七		
一一九九七	文永三		
一一九九八	文永七		
一一九九九	文永三		
一一九九〇	文永七		
一一九九一	文永三		
一一九九二	文永七		
一一九九三	文永三		
一一九九四	文永七		
一一九九五	文永三		
一一九九六	文永七		
一一九九七	文永三		
一一九九八	文永七		
一一九九九	文永三		
一一九九〇	文永七		
一一九九一	文永三		
一一九九二	文永七		
一一九九三	文永三		
一一九九四	文永七		
一一九九五	文永三		
一一九九六	文永七		
一一九九七	文永三		
一一九九八	文永七		
一一九九九	文永三		
一一九九〇	文永七		
一一九九一	文永三		
一一九九二	文永七		
一一九九三	文永三		
一一九九四	文永七		
一一九九五	文永三		
一一九九六	文永七		
一一九九七	文永三		
一一九九八	文永七		
一一九九九	文永三		
一一九九〇	文永七		
一一九九一	文永三		
一一九九二	文永七		
一一九九三	文永三		
一一九九四	文永七		
一一九九五	文永三		
一一九九六	文永七		
一一九九七	文永三		
一一九九八	文永七		
一一九九九	文永三		
一一九九〇	文永七		
一一九九一	文永三		
一一九九二	文永七		
一一九九三	文永三		
一一九九四	文永七		
一一九九五	文永三		
一一九九六	文永七		
一一九九七	文永三		
一一九九八	文永七		
一一九九九	文永三		
一一九九〇	文永七		
一一九九一	文永三		
一一九九二	文永七		
一一九九三	文永三		
一一九九四	文永七		
一一九九五	文永三		
一一九九六	文永七		
一一九九七	文永三		
一一九九八	文永七		
一一九九九	文永三		
一一九九〇	文永七		
一一九九一	文永三		
一一九九二	文永七		
一一九九三	文永三		
一一九九四	文永七		
一一九九五	文永三		
一一九九六	文永七		
一一九九七	文永三		
一一九九八	文永七		
一一九九九	文永三		
一一九九〇	文永七		
一一九九一	文永三		
一一九九二	文永七		
一一九九三	文永三		
一一九九四	文永七		
一一九九五	文永三		
一一九九六	文永七		
一一九九七	文永三		
一一九九八	文永七		
一一九九九	文永三		
一一九九〇	文永七		
一一九九一	文永三		
一一九九二	文永七		
一一九九三	文永三		
一一九九四	文永七		
一一九九五	文永三		
一一九九六	文永七		
一一九九七	文永三		
一一九九八			

年 表

一四七〇	船が沈没し死去。胤朝が嗣ぐ	一四七一	大内方の千葉胤朝と少弐方の胤将が内紛を おこす
一四八五	本庄江港での難波船への略奪を禁止する制 札が出される。押売、乱暴の取締りの制札 も掲げられる	一四八六	全国に天然痘流行す
一四八六	千葉胤将、兄胤朝を殺害。胤将、少弐政資 に追われ出奔。政資、弟を胤資として千葉 家を嗣がせる	一四八七	桜島大噴火
一四八七	加賀一向一揆蜂起	一四八八	全国に天然痘流行し、久保田でも多数の死 者出る
一四五〇	大内義興が少弐政資を破る	一四五七	千葉胤朝、水ヶ江に新館を築き、隱岐入 道と号して隠居。佐賀城には二男家員を、 水ヶ江新館には山城守家兼をおく
一五一〇	少弐政資小城晴気城に逃れ、更に多久に落 ち自殺	一五〇五	龍造寺康家、水ヶ江に新館を築き、隱岐入 道と号して隠居。佐賀城には二男家員を、 水ヶ江新館には山城守家兼をおく
一五一一	神代勝利千布館にて誕生す	一五二一	千葉胤資の子胤治・胤繁は、千葉胤常ら大 内方との戦いで敗死。横岳資貞は胤繁の後 継に三男を養子に出し、胤勝と名乗らせる
一五二一	千葉胤資の子胤治・胤繁は、千葉胤常ら大 内方との戦いで敗死。横岳資貞は胤繁の後 継に三男を養子に出し、胤勝と名乗らせる	一五二七	千葉胤資の子胤治・胤繁は、千葉胤常ら大 内方との戦いで敗死。横岳資貞は胤繁の後 継に三男を養子に出し、胤勝と名乗らせる

西暦	年号	国内のできごと
一三六〇	正平一	龍造寺氏菊池氏と神埼で戦う
一三七一	応安四	今川俊俊(貞世)が九州探題として下向
一三九五	応永二	今川俊俊(貞世)が九州探題を解任され、京都に召還
一三九七	四	北山第(金閣)上棟
一三九九	六	応永の乱おこり大内義弘、堺に敗死
一四〇〇	一〇	千葉胤貞の子胤泰の死去。胤基が嗣ぐ
一四〇六	一三	千葉胤基が死去。胤鎮が嗣ぐ
一四〇八	一五	千葉胤基が死去。胤紹が嗣ぐ
一四〇九	一六	千葉胤基が死去。胤紹が嗣ぐ
一四一七	二四	千葉胤基が死去。胤鎮が嗣ぐ
一四二三	三〇	千葉胤鎮、弟の胤紹に追放される
一四三七	一二	千葉胤鎮、弟の胤紹に擁立された千葉胤鎮、胤紹を敗死させる
一四四〇	一二	千葉胤鎮が死去。子の元胤が嗣ぐ
一四五二	二	千葉元胤、朝鮮に歲遣船を派遣
一四五五	三	千葉元胤が死去し、子の教胤が嗣ぐ
一四五九	五	千葉教胤、胤朝、胤紹の子軍に勝利する
一四六四	元	この時胤朝方の今川胤秋(仲秋の曾孫)が敗死
一四六七	元	千葉教胤、大村氏攻撃の際、杵島の入江で
文明元	元	○ 大船若経写經本、西持院にできる
一四五九	元	○ 宝琳寺開山の和尚、仙翁竹大示寂す
一四六四	元	10.21 窪田利弘が死去
一四六七	元	1.19 窪田利弘が死去

年表

一五四〇	一九	一八	一七	一六	一五四五	一五四四	一五四三	一〇	少式冬尚、龍造寺家兼に授けられて神崎勢 対立
一五四九	一五四八	一五四七	一五四六	一五四五	一四	一三	一〇	少式冬尚方の千葉胤頼と龍造寺方の胤勝が 対立	1. 河上社頭の戦い(家兼の子家純・家 門及び家純の子純家敗死)
一五四八	一五四七	一五四六	一五四五	一五四四	一四	一三	一〇	少式冬尚方の千葉胤頼と龍造寺方の胤勝が 対立	2. 龍造寺周家・神崎祇園原で戦死 3. 家兼、佐賀に帰る。馬場頼周を討ち、 神代勝利の属城千布城を攻陥す
一五四七	一五四六	一五四五	一五四四	一五四三	一四	一三	一〇	少式冬尚方の千葉胤頼と龍造寺方の胤勝が 対立	1. 河上社頭の戦い(家兼の子家純・家 門及び家純の子純家敗死)
一五四六	一五四五	一五四四	一五四三	一〇	少式冬尚方の千葉胤頼と龍造寺方の胤勝が 対立	○ 有馬晴純(肥前の日野江)が来寇。これに 対し龍造寺、千葉・小式の三家、攻守同盟 を結んで相拮抗す。このとき戦火、久保田 (王子、恒安、福庄、高町、入道町、式町) にも及ぶ			

少式冬尚方の千葉胤頼と龍造寺方の胤勝が
対立

1. 河上社頭の戦い(家兼の子家純・家
門及び家純の子純家敗死)

2. 龍造寺周家・神崎祇園原で戦死
3. 家兼、佐賀に帰る。馬場頼周を討ち、
神代勝利の属城千布城を攻陥す

○ 有馬晴純(肥前の日野江)が来寇。これに
対し龍造寺、千葉・小式の三家、攻守同盟
を結んで相拮抗す。このとき戦火、久保田
(王子、恒安、福庄、高町、入道町、式町)
にも及ぶ

西暦	年号	国・県内でのできごと	町内でのできごと
一五二三	一〇	小田資光、加世(嘉瀬)の龍造寺と謀って 千葉胤勝の居城高田城を攻めて筑前に追う	○ ○ 観辨西持院寺領日記できる 『西持院文書』によると、西持院の南方に は未聞の荒野が広がっている
一五二四	一〇	大永四	○ 小田資光が加世(嘉瀬)の龍造寺と謀って 千葉胤勝の居城高田城(三日月)を攻めて 筑前に追つたことがある。このとき久保田、 甚大な戦禍をこうむる
一五二九	享禄二	龍造寺隆信、水ヶ江城で誕生	
一五三〇	天文元	大内義隆が将杉興運兵を率いて、肥前侵入、 少式氏を攻撃。鍋島平右衛門清久赤熊をか ぶり大内方を追討す(田手瞬合戦)	○ 小田資光が加世(嘉瀬)の龍造寺と謀って 千葉胤勝の居城高田城(三日月)を攻めて 筑前に追つたことがある。このとき久保田、 甚大な戦禍をこうむる
一五三一	五三	大内氏、大友・少式氏討たんと陶興房を出 兵させる	
一五三二	五三	龍造寺家兼、大内方と戦う(三津山合戦)	
一五三三	五三	大内氏の将陶興房少式資元を多久に攻め、 資元自殺。資元の子冬尚は龍造寺家兼をた よる	
一五三四	五六	小田資光水ヶ江城を攻める	
一五三五	五六	龍造寺家兼木原で撃退する	
一五三六	五六	千葉興常死去。その子喜胤と胤勝・胤連父 子と反目する。喜胤は少式冬尚の弟(胤 頼)を養子とする	
一五三七	六		
一五三八	九		
一五三九	九		
一五四〇	九		

年 表

一五六三	元龜元	七八	一二三	六	五	四	一五六二	一五六一
一五六四	天正元	一二三	六					
一五六五	二元	五·三好義継、將軍足利義輝を殺す					9·10 上杉謙信と武田信玄川中島で戦う	れ城原の城で自殺同十八日小城千葉屋形の胤頼滅亡(隆信の勝利)
一五六九	元	大友義鎮(宗麟)隆信を討たんと神代長良と通じ佐賀城へ軍を進める					7· 大村純忠、肥前横瀬浦にキリスト教會を建立	隆信山内に入る。神代勝利父子筑前に逃げる(川上合戦)
一五七〇	元	8·20 今山合戦、龍造寺、大友を破る。隆信軍に西持院宥秀ら山伏も参加					このころ毛利・大友両氏、豊前各地で戦う	
一五七一	元	10· 龍造寺、大友両氏和議						
一五七三	元	龍造寺隆信、筑紫氏を破る						
一五七四	元	7· 織田信長、足利義昭を追放(足利幕府滅亡)						
一五七五	元	隆信、上松浦の草野鎮永を攻撃する。窪田氏や西持院の山伏衆も参陣						
○		○						
		満岳武藏守藤原宗久、父宗成の遺志を継ぎ、後藤貢明の草庵を改築して満岳山龍顕寺を創建し恒安に居館す					龍造寺隆信、須古城に平井経治を攻撃する。西持院別当坊の山伏衆も参陣する	

西暦	年号	国・県内のできごと	町内のできごと
一五五一	二〇	隆信、胤久の将土橋栄益や諸氏に攻められ 筑後に亡命。この時、隆信方の鴨打・窪田 氏は、土橋方の徳島信安と交戦	
一五五三	二二	上杉謙信、武田信玄と川中島に戦う	
一五四四	二三	隆信帰国	
一五五五	弘治元	4. 織田信長、叔父信光と清洲城を奪う 7. 武田信玄と上杉謙信と交戦続く 10. 毛利元就、陶晴賢を安芸厳島に滅す	○ 芦刈の徳島信安、窪田氏を急襲。隆信は窪 田氏支援のため鴨池氏を遣す。両軍、新ヶ 江で対陣する。
一五六六	二	この前後一〇年間、倭寇最も活発に活動 掘江神社(佐賀市神野町堀江)の大宮司山	
一五五八	永禄年間	本玄蕃が天衝舞浮立を創る	
一五五九	永禄年間		
一五五八	永禄元		
一五五九	二		
春	冬十一月隆信、江上武種を討つ(水江事略 卷第三)	冬十一月隆信、江上武種を討つ(水江事略 卷第三)	
一五五九	冬	後藤貴明、恒安に自運庵を建て居館してい たが、龍造寺隆信に攻められ塚崎城(武雄) に逃れる (後、隆信、須古城の平井経治を追つて、自 ら須古城に居城し、貴明と和睦す)	
一五五八	冬		

年 表

西暦	年号	国内のできごと	内閣文庫所蔵
一五七六	一五七七	2. 信長、安土城を築いて移る 4. 信長、大坂石上本願寺を討つ 6. 明智光秀、丹波丹後を平定	○ ○ 龍造寺隆信の伯母妙鎮大姉、元昌山妙鎮寺を建立す
一五七九	一五八〇	龍造寺隆信と後藤貴明の和議成立。隆信の三男家信は貴明の養子となる	○ ○ この年より西持院が本山流山伏法頭職をつとめることとなる
一五八一	一五八二	家信の入部に際し「武雄五十人土」の中に滝田藏人、恒安平六左衛門の名がある	○ ○ 貴明の実子晴明は龍造寺家均と称し、久保田に居住する
一五八四	一五八五	大村純忠長崎の地を教会領として寄進する	○ ○
一五八七	一五八八	龍造寺隆信、筑前・筑後・肥前・肥後・壹岐の「五州大守」と称す。(隆信の最盛期)	○ ○
一五九〇	一五九一	隆信、居城(水ヶ江)を政家に譲つて、須古城に移る	○ ○
一八	一九	3. 24 隆信、沖田畷の戦いで戦死(五六歳)	○ ○
一六	二〇	4. 9 秀吉、家康と小牧で戦う	○ ○
一五八七	一五八八	6. 7 秀吉、九州平定のため博多に着く。 龍造寺政家、秀吉の島津征伐に従軍 政家、領国の実権を鍋島直茂に譲る 肥前に太閤檢地実施	○ ○ ○ ○
秀吉、全国を平定		3. 24 隆信の児小姓福地乃那(千)、島原冲田畷にて戦死。 (参考・明治十七年一月、上恒安の龍顔寺境内に「烈士福地千之碑」建立)	○ ○ ○ ○
一五九〇		3. 7 龍造寺政家、国政を鍋島直茂にあずけることにして久保田で隠居することになる 政家、隠居料として久保田に五、一二四石の領地を得 の領地を得 久保田小路に隠居し、軍役を	○ ○ ○ ○

年 表

一六六六	元禄	貞亨	天和	延宝	諸国に風水害起る
一六六九	元	元	寛延	二	2・幕府、京耕使用を諸国に布達する
一六七一	元	元	一	3・幕府、伊達騒動を裁く	
一六七三	元	元	五	5・26 イギリス船長崎着岸、佐賀藩警備を固くする	
一六七四	元	元	一	関孝和「発微算法」刊	
一六七五	元	元	二	12・鍋島光茂江戸の供人数をへらす	
一六七八	元	元	一	鍋島本藩、本格的に土木工事を行う。嘉瀬川の大曲りを改修す	
一六八一	元	元	一	鍋島本藩、三家格式をつくり、三家	
一六八三	元	元	二	2・22 佐賀本藩、三家格式をつくり、三家との紛争一応落着	
一六八四	元	元	三	5・15 佐賀城天守修理	
一六八五	元	元	三	10・29 幕府新暦(貞享暦)を用う	
一六八六	元	元	二	佐賀藩厅、弁財天堂の改築を実施	
一六八七	元	元	二	佐賀大火(侍屋敷二〇軒、町家五七六軒)	
一六八八	元	元	三	1・20 生類憐みの令出る	
(9・30改元)	西鶴「日本永代藏」刊	元	四	○ 村田辰政寄進状によると、西持院の山号が彦流山から彦隆山に変更された。	
	窓乃梅酒造創業。(初代古賀六右エ衛門「寒菊」の銘にて造る)	元	五	○ 敷地の合計は五反五畝となる	

年 表

一七一五	正徳	五	8. 17 有明海沿岸一帯、台風・高潮襲来 (潰家二七〇〇軒、流家一〇〇軒余)
一七一六			10. 林奉行に諸国御林の巡察を命ずる
一七一〇	享保	五	12. キリスト教以外の漢訳洋書の輸入、解禁される
一七二三	元	六	『葉隱聞書』完成 (6. 22 改元)
一七二〇	享保	五	3. 諸国の人口調査を以後 6 カ年毎 (子・午年の実施とする)
一七二五	元	六	幕府諸国に戸籍調査を実施する
一七二六	享保	五	佐賀城焼失 (本丸、二の丸、三の丸)
一七三〇頃	未	一〇	○ 久富東の御彦大明神、建立
一七三一	一〇	一〇	○ 久富村境の嘉瀬川の曲がり直流になる
一七三二	一〇	一〇	○ 大立野東の沖祇大明神建立
一七三三	一〇	一〇	○ 久保田宿にて大火、西持院類焼す
一七三四	元文	一八	○ 拠東の澳島大明神建立
一七三五	元	二	○ 麦新ヶ江べりの嘉瀬川の曲がり直流になる
一七三六	實延	一八	○ 拠東の澳島大明神建立
一七三七	元文	二	○ 得仏掘切工事始まる
一七三八	元	五	○ 麦新ヶ江べりの嘉瀬川の曲がり直流になる
一七五〇	一七五〇	一八	○ 肥前諫早で一揆
一七五〇	一七五〇	一八	○ 規準の算定を命ずる
一七五〇	一七五〇	一八	○ 4. 諸代官へ諸村の実情調査と年貢賦課

西暦	年号	国・県内のできごと	町内のできごと
一六八九	二	佐賀城二の丸に聖堂建つ 3・14 鍋島勝茂三回忌、高伝寺領三〇〇石となる	
一六九一	五	6・28 筑前藩主黒田綱政、藩境争論を幕府に提訴する旨を伝えてくる	
一六九四	七	10・21 脊振山弁財天嶽境論争、肥前勝訴の判決	
一六九六	九	11・23 幕府諸国に地図校訂を命じる	
一六九九	一二	7・14 肥前国(元禄絵図)を幕府に提出	
一七〇〇	一三	3・14 播州赤穂藩主浅野長矩江戸城中で高家吉良義央を傷つけ、切腹、改易さる	
一七〇一	一四	12・15 赤穂浪士、吉良義央を討つ	
一七〇二	一五	1・3 浅間山噴火	○ 西持院は衰微し法頭職の勤めが困難になる が、村田家の庇護で継続する
一七〇四	一六	7・14 脊振久保山に白蛇出現する、白蛇堂建立さる	○ 上新ヶ江の太神宮建立
一七〇五	一七	この年、伊勢おかげ参り盛ん	
一七〇七	一八	11・ 富士山噴火・宝永山できる	
一七〇八	一九	8・14 多久聖廟が完成	○ 村田政種、龍洞山大雲寺を建立す
一七〇九	二〇	7・20 妙鎮寺境内に、心月妙円大姉の墓碑が建立さる	

年 表

西暦	年号	国・県内のできごと	町内のできごと
一七六〇	宝暦一〇	明和年間 幕府長崎貿易を奨励	○ ○ 濱土井（第二土井）の築造
一七六一	一七二	6・3 長崎銅会所を廢止	経塔さん（「大乘妙典書写石一部」と刻まれた石塔）の建立
一七六六	明和三	6・3 塚原で刑死者解剖を見る	
一七七一	八	4・伊勢おかげ参り流行する	
一七七二		7・20 虹の松原一揆（唐津藩）	
一七七五	元	4・23 鍋島治茂、藩政改革を発表	
一七七八	元	12・佐賀城下松原に藩校「弘道館」を開設	○ ○ 麦新ヶ江の八幡社建立
一七八四	四	8・1 肥前地方大風雨で田畠、潮土居破損 甚大	○ ○ 邑主第一〇代政資、学問所を増築
一七八七	七	9・6 蓬池藩校成章館創立	○ ○ 第二代政致、父に続いて学問所を改善拡大し、「思齊館」と名付く。このとき古賀精里、教義、学則の撰文、及び「思齊館」の記を書字す
一七八九	三	寛政年間の水害、九州一帯、災害統発	○ ○ 久富と大立野に御番所設置
一七九一		7・筑後川大氾濫。千栗土井決壊、三養基・神埼、さらに城下の高尾近くまで浸水	

年 表

嘉永	三	一八五〇	吉田松陰、佐賀弘道館を訪ねる(二)
○歳	12	一八五二	○嘉瀬の大橋、架け直り、渡り初め式
○歳	12	一八五三	○八ノ坪の天神様(天満宮)に水盤寄進
○歳	12	一八五四	○久保田宿の祇園社の手水鉢奉獻さる
○歳	12	一八五五	○『寒菊』を『窓乃梅』と改称
安政	五	一八五二	一八六四
六	五	一八五三	文久
七	五	一八五四	万延
三	五	一八五五	元
六	五	一八五六	四
12	九・九	一八五六	元
12	九・九	一八五七	元
○	○	一八五八	元
○	○	一八五九	元
○	○	一八六〇	元
○	○	一八六一	元
○	○	一八六二	元
○	○	一八六三	元
○	○	一八六四	元
○	○	一八六五	元
○	○	一八六六	元
○	○	一八六七	元
○	○	一八六八	元
○	○	一八六九	元
○	○	一八七〇	元
○	○	一八七一	元
○	○	一八七二	元
○	○	一八七三	元
○	○	一八七四	元
○	○	一八七五	元
○	○	一八七六	元
○	○	一八七七	元
○	○	一八七八	元
○	○	一八七九	元
○	○	一八八〇	元
○	○	一八八一	元
○	○	一八八二	元
○	○	一八八三	元
○	○	一八八四	元
○	○	一八八五	元
○	○	一八八六	元
○	○	一八八七	元
○	○	一八八八	元
○	○	一八八九	元
○	○	一八九〇	元
○	○	一八九一	元
○	○	一八九二	元
○	○	一八九三	元
○	○	一八九四	元
○	○	一八九五	元
○	○	一八九六	元
○	○	一八九七	元
○	○	一八九八	元
○	○	一八九九	元
○	○	一九〇〇	元
○	○	一九〇一	元
○	○	一九〇二	元
○	○	一九〇三	元
○	○	一九〇四	元
○	○	一九〇五	元
○	○	一九〇六	元
○	○	一九〇七	元
○	○	一九〇八	元
○	○	一九〇九	元
○	○	一九一〇	元
○	○	一九一一	元
○	○	一九一二	元
○	○	一九一三	元
○	○	一九一四	元
○	○	一九一五	元
○	○	一九一六	元
○	○	一九一七	元
○	○	一九一八	元
○	○	一九一九	元
○	○	一九二〇	元
○	○	一九二一	元
○	○	一九二二	元
○	○	一九二三	元
○	○	一九二四	元
○	○	一九二五	元
○	○	一九二六	元
○	○	一九二七	元
○	○	一九二八	元
○	○	一九二九	元
○	○	一九三〇	元
○	○	一九三一	元
○	○	一九三二	元
○	○	一九三三	元
○	○	一九三四	元
○	○	一九三五	元
○	○	一九三六	元
○	○	一九三七	元
○	○	一九三八	元
○	○	一九三九	元
○	○	一九四〇	元
○	○	一九四一	元
○	○	一九四二	元
○	○	一九四三	元
○	○	一九四四	元
○	○	一九四五	元
○	○	一九四五	元
○	○	一九四六	元
○	○	一九四七	元
○	○	一九四八	元
○	○	一九四九	元
○	○	一九五〇	元
○	○	一九五一	元
○	○	一九五二	元
○	○	一九五三	元
○	○	一九五四	元
○	○	一九五五	元
○	○	一九五六	元
○	○	一九五七	元
○	○	一九五八	元
○	○	一九五九	元
○	○	一九六〇	元
○	○	一九六一	元
○	○	一九六二	元
○	○	一九六三	元
○	○	一九六四	元
○	○	一九六五	元
○	○	一九六六	元
○	○	一九六七	元
○	○	一九六八	元
○	○	一九六九	元
○	○	一九七〇	元
○	○	一九七一	元
○	○	一九七二	元
○	○	一九七三	元
○	○	一九七四	元
○	○	一九七五	元
○	○	一九七六	元
○	○	一九七七	元
○	○	一九七八	元
○	○	一九七九	元
○	○	一九八〇	元
○	○	一九八一	元
○	○	一九八二	元
○	○	一九八三	元
○	○	一九八四	元
○	○	一九八五	元
○	○	一九八六	元
○	○	一九八七	元
○	○	一九八八	元
○	○	一九八九	元
○	○	一九九〇	元
○	○	一九九一	元
○	○	一九九二	元
○	○	一九九三	元
○	○	一九九四	元
○	○	一九九五	元
○	○	一九九六	元
○	○	一九九七	元
○	○	一九九八	元
○	○	一九九九	元
○	○	二〇〇〇	元

西暦	年号	国・県内でのできごと	町内でのできごと
一八二〇	一八二二	7. 伊能忠敬の「大日本沿海輿地全図」完成、幕府に献上	○ 錫島齊直、長崎への旅の途上、病にかかり古賀穀堂世子齊直の侍講となる
一八二一	一八二三	8. 日本最初のコレラ流行	○ 德万宿にて養生
一八二二	一八二四	9. 錫島直正・盛姫と結婚	○ 大立野東の沖祇大明神に二の鳥居寄進
一八二三	一八二五	10. 幕府百姓町人の脇着を禁じる	
一八二四	一八二六		
一八二五	一八二八		
一八二六	一八二九		
一八二七	一八三一	8. 北九州一円、未曾有の大暴風雨。	○ 嘉瀬の大橋、造り直され渡り初め式
一八二八	一八三二	9. 賀藩死者八八五三人など被害甚大。(子年台風)	○ シーボルト出島から江戸出府の折、久保田八筋堀の菱を見る(旅記録)
一八二九	一八三三	10. 古賀穀堂「済急封事」を差し出す	
一八三〇	一八三四	11. 佐賀藩医学館を城下八幡小路に設立	
一八三一	一八三五	12. 佐賀藩、富くじの発行を停止、諸富	
一八三二	一八三六	13. の遊女を廃止	
一八三三	一八三七	14. を捕える(蚕社の獄)	
一八三四	一八三八	15. 大塙平八郎の乱起ころ	
一八三五	一八三九	16. 唐津幕領で百姓一揆(翌十年も)	
一八三六	一八四〇	17. 幕府、開国論の渡辺隼山・高野長英	
一八三七	一八四一	18. 「郷村御取調達帳」鍋島藩主より農村部へ	
一八三八	一八四二	19. 久富の御彦髮沖大明神鳥居建立	
一八三九	一八四三	20. 神園社敷地二畝六歩、若狭殿分御免地となる	

年 表

一八七三

一八七二

六

五

四・四 戸籍法制定

7・14 廃藩置県の詔書である

7・14 佐賀・小城・蓮池・鹿島・唐津・厳原の六県を設置

8・3 文部卿大木喬任（本県出身）、学制を發布

9・3 田畠勝手作の許可

9・4 佐賀県を伊万里県と改め、厳原県を合併

10・14 佐賀中学校を設立

11・14 小城・蓮池・鹿島各県を伊万里県に統合

1・伊万里県の高来・彼杵郡を長崎県管轄にする

2・15 田畠永代売買の禁を解く

3・1 区制改革（四一大区、九七小区）

4・9 戸長・副戸長等を設置

5・29 伊万里県を佐賀県と改称

8・ 行事許可出願

12・3 太陽暦を実施、この日を明治六年一月一日とする

1・16 徵兵令を布達。熊本鎮台を設置

7・12 県庁が佐賀松原から旧城内へ移る

西暦	年号	国内のできごと	町内のできごと
一八六五	元治	新撰組、池田屋で尊攘派を襲う	○ ○ 江戸の八大龍王祠に、石灯籠建立
一八六六	慶応	(4・7改元)	村田若狭(政矩)、干拓工事を着工
一八六七	元	陸仁親王(明治天皇)、践祚	
一八六八	三	1・9 パリ万博に佐賀藩も参加	
一八六九	四	2・27 德川慶喜、大政奉還	
一八七〇	三	10・14 王政復古の大号令出る	
一八七一	二	12・9 野戦で活躍	
一八七二	元	1・3 烏羽伏見の戦(戊辰戦争始まる)	
	明治	3・14 五箇条の御誓文	
	元	5・15 佐賀藩兵、アームストロング砲で上	
	元	9・8 明治と改元	
	元	11・1 版籍奉還の上表(薩・長・土・肥)	
	元	11・5 函館戦争、佐賀藩朝陽艦被弾す(戦傷死者多数)	
	元	17・5 櫻本武揚ら降伏(函館戦争終る)	
	元	17・6 鍋島直大、版籍奉還を許可される	
	元	20・7 鍋島直正、北海道開拓使長官に、島義勇、同開拓使判官に任命される	
	元	19・9 平民に名字使用を許可	
	元	唐津藩が藩政改革を行う	
	元	鍋島直正没(五八才)	
	元	○ 江口梅亭、好生館教諭院長となる	
	元	○ 久保田にも兵団が設置	
	元	12・久保田にも医学会議所設立	

年表

西暦	年号	国・県内でのできごと	町内でのできごと
一八七四	一	郵便はがき発行	
一八七五	二	民撰議院設立建白書を提出	
一八七六	三	佐賀の役起ころ(3・1平定)	○ 佐賀の役に久保田邑から参加した者、村田九郎と北房重治(処罰として、除籍の上、三年の懲役)
一八七七	四	佐賀軍佐賀県厅に入る、佐賀城焼失	
一八七八	五	江頭新平・島義勇死刑される	
一八七九	六	県内全域に暴風雨災害	○ 県の行政区画で、久保田(徳万村、新田村、久保田村、久富村)は第一大区の第二小区に編入。事務所は嘉瀬津におく
一八八〇	七	佐賀病院に医学所を置き、学術・医学を講義	
	八	佐賀病院に医学所を置き、学術・医学を講義	
	九	官厅、日曜休日、土曜半休を実施	
	一〇	佐賀県を廃し、三藩県に併合	
	一一	三藩県を廃し、旧佐賀県を長崎県に併合	
	一二	廃刀令を制定	
	一二	この年、県内全域に害虫が発生し、各地から「青田虫除花火」許可出願	
	一二	この年、自由民権運動起ころ	
	一二	この月、県内にコレラ大流行	
	一二	第一回長崎県会議員選挙	
	一二	この年、佐賀頼正寺内に振風教校開設(現龍谷学園)	
	一二	三新法制定(郡区町村編制法・府県会規則・地方税規則)	
	一二	長崎県管下、郡区町村編成実施	
	一二	不作のため米価石七円三〇銭	
	一二	戸長公選	
	一二	長崎県町会規則を布達	
	一二	小城に第九七国立銀行設立	
	一二	佐賀に第一〇六国立銀行設立	
	一二	長崎県町村連合会規則を布達	
	一二	この月、県内にコレラ流行	
	一二	学制を廃し、教育令公布(小学四年まで)	
	一二	長崎県管下、戸長管轄区拡大	
	一二	佐賀郡勧業談話会を開設	
	一二	集会条例布告、教員・生徒の政治的集会参加、政治団体加入を禁止	
	一二	学制を廃し、教育令公布(小学四年まで)	
	一二	長崎県管下、戸長管轄区拡大	
	一二	江口六蔵、長崎県議会副議長となる	

年 表

一八八六	一〇	一九
太政官制廢止、内閣制度を設置		
公布。義務教育四カ年となる		
学齢児童就学規則を制定		
1. 文部大臣森有礼来佐	1. 9. 4.	
私立教育会を協和館で開催	3. 12.	
県立佐賀測候所を開設の事務開始	8. 3.	
佐賀取引所開設	8. 3.	
久米邦武史料収集に来佐	9. 9.	
県厅舎落成	12. 28.	
7. 21. 久保田一帯にかつてないほどの大雨 (大洪水、冠水田、家屋の床上浸水おびた だしく、被害甚大)	22.	
8. 2. 佐賀郡内戸長(二六人)の異動。その結果、 徳万村ほか三村戸長は、石川謙助から城島 廉藏に		
9. 4. 新田村の嘉瀬川で水中馬術競技会が開催され、知事、裁判長らも見物す		
○ 大立野、久富、永里にあつた教室をひとまとめてにして思斎小学校を設立(邑主村田氏の私財による)		
○ 久富、漁浦として指定を受く	8.	
4. 1. 市町村制実施に伴つて、従来の久保田、徳万、新田、久富の四カ村が合併し、「久保田村」となる。初代村長に江口六蔵。村を一七区に分け、各区に区長をおく		
大立野駅在所を設置		
横江に小学校の分校、設立		
江戸堀に「填海拓地之碑」を建立		
一八八八	一一	二二
一八八九		
公布	6. 27.	
大日本帝国憲法、衆議院議員選挙法	2. 11.	
土地台帳規則公布	3. 23.	
市制・町村制施行	4. 1.	
大隈外相が玄洋社員に襲われ負傷	10. 18.	

西暦	年号	国・県内のできごと	町内でのできごと
一八八一	一一	12.28 教育令を改正 9.26 県内に暴風雨で被害である	○ 嘉瀬大橋、架け替え
一八八二	一二	10.12 国会開設の詔勅發布。大隈重信ら罷免される	
一八八三	一五	1. 中野致明、倉永文辰らが佐賀農談会を組織 2. 佐賀県再置運動起る	
一八八四	一六	4.16 大隈重信らが立憲改進党を結成(東京) 5.2 九州改進党肥前部会開催 5.9 佐賀県が長崎県から分離独立、鎌田景弼が知事就任	
一八八五	一七	7.1 佐賀県庁が開庁 9.5 佐賀県公開会、県議員選挙手続き制定 5.7 区町村会法改正、公選戸長を官選とする 7.1 佐賀県師範学校開校。県八中学校を廃し、一県一中学の佐賀中学校となる	○ 「烈士福地千之碑」、龍顏寺境内に建つ (後裔江口六藏の建立)
一八八六	一八	8.1 「佐賀新聞」創刊 1.6 古賀銀行が開業(佐賀郡蓮池町、現佐賀市柳町)	○ 大立野が漁浦として指定を受く
一八八七	一九	9.15 徳万村の民家に八人組強盗。金銭を強奪 12. 徳万村に警察派出所が完成し、開所式	

西暦	年号	国・県内のできごと	町内のできごと
一八九〇	一三	1. 米価騰貴で各地で米騒動起る 4. 佐賀実習女学校創設(後の成美高女) 7. 第一回衆議院議員総選挙 8. 佐賀測候所開所(測候開始) 9. 金立金比羅社不知火見物で賑わう 10. 教育勅語發布	1. 嘉瀬橋、架け替え 9. 村内でコレラ病死者の埋葬をめぐつて紛糾。村長は同村字大立野に埋葬を計画、これに反対して地元住民約三〇〇人が竹槍を持つて役場に押しかける 2. 德万の樟木代金処分の控訴審で長崎控訴院は、樟木は村民の共有物であり農会員の共有物ではないと判決 3. 德万分署(明治十年設置)、德万駐在所となり、巡査一名を常置
一八九一	一四	1. 佐賀・神埼間直線国道竣工 3. 佐賀県国道改修工事竣工(諸富国道) 3. 八田江疎水工事落成 8. 九州鉄道、鳥栖・佐賀間が開通 ○この年、家族制度をめぐる民法典論争起こる	1. 德万から小寺兵助宅で淨瑠璃会を開催する。四日まで 2. 德万の小寺兵助宅で淨瑠璃会を開通式典。二〇〇余人、集參 3. 大雨で県内各地で大被害。この救援として、久保田村の堤善太郎ら六人、それぞれ二~五俵の救援米を洪水被害者に贈る 4. 久保田村役場(小路)が全焼。帳簿類と税取立て金、一三〇〇余円など焼失 4. 思斎小学校(当時四年制)の高等料を廃止し、久保田、嘉瀬、鍋島三カ村の学校組合
一八九二	一五	2. (第二回総選) 選挙大干渉、小城町で官党と民党衝突。福岡官兵、熊本憲兵が小城に出兵 3. 久米邦武筆禍事件で東大教授非職と	2. 德万から小城への直線道路(更に東松浦郡呼子まで結ぶ)が開通。小城町で開通式典。二〇〇余人、集參 3. 大雨で県内各地で大被害。この救援として、久保田村の堤善太郎ら六人、それぞれ二~五俵の救援米を洪水被害者に贈る 4. 久保田村役場(小路)が全焼。帳簿類と税取立て金、一三〇〇余円など焼失 5. 杉野専務医院は村長の証明があれば赤貧者に無料で治療を施す 6. 元小路の本校を思斎小学校とし、横田の分校を新田小学校と名した 7. 本野盛亨、総子、太郎次郎社を再建 8. 暴風雨
一八九三	一六	1. 佐賀県農芸が創立発会式(明治三十一年解散)	1. 立の「青藍高等学校」を嘉瀬村に設立(現在、「青藍校之址」の石碑が建っている) 2. 佐賀郡春日高等学校は県内で最初に養蚕科目を設け三、四年の女子に履修させる 3. 佐賀・長崎間の工事着工 ○この年、天然痘・赤痢流行
一八九四	一七	4. 佐賀郡春日高等学校は県内で最初に養蚕科目を設け三、四年の女子に履修させる 8. 日清戦争始まる(翌年3・20講和会議)	4. 佐賀郡春日高等学校は県内で最初に養蚕科目を設け三、四年の女子に履修させる 8. 佐賀米穀取引所開業
一八九五	一八	4. 佐賀簡易農学校設立、23日、開校式 5. 佐賀・武雄間鉄道開通 6. 農学校、多布施に新築移転 6. 東松浦郡久里村で長谷川敬一郎が県内初の蒸気揚水を行う(七〇町) 7. 警察部に衛生課新設	4. 佐賀簡易農学校設立、23日、開校式 5. 佐賀・武雄間鉄道開通 6. 農学校、多布施に新築移転 6. 東松浦郡久里村で長谷川敬一郎が県内初の蒸気揚水を行う(七〇町) 7. 警察部に衛生課新設

年表

西暦	年号	国・県内でのできごと	町内でのできごと
一八九六	一八九六		
一八九七	一八九七		
一八九八	一八九八		
一八九九	一八九九		
一九〇〇	一九〇〇		
一九〇一	一九〇一		
一九〇二	一九〇二		
三五	三四		
三一	三一		
二九	二九		
一九〇〇	一九〇〇	1.29 佐賀県婦人淑女会発会 2.8 高等女学校令公布、各都道府県に高等女学校設置を規定 12.20 年賀郵便特別扱い制定 8. 佐賀に「筑紫文学会」創立 8. 県蚕糸協会を設立（加盟者一九四〇人） 8.20 小学校令改正（尋常小学校を四年制に統一、義務教育の授業料を徴収せず） 2.24 奥村五百子主唱の愛国婦人会設立 6.18 第一中学校を佐賀中学校に、第二中学校を鹿島中学校、第三中学校を唐津中学校に校に	1.29 佐賀県婦人淑女会発会 2.8 高等女学校令公布、各都道府県に高等女学校設置を規定 12.20 年賀郵便特別扱い制定 8. 佐賀に「筑紫文学会」創立 8. 県蚕糸協会を設立（加盟者一九四〇人） 8.20 小学校令改正（尋常小学校を四年制に統一、義務教育の授業料を徴収せず） 2.24 奥村五百子主唱の愛国婦人会設立 6.18 第一中学校を佐賀中学校に、第二中学校を鹿島中学校、第三中学校を唐津中学校に校に
一九〇一	一九〇一	8. 久保田一帯に大地震	8. 久保田一帯に大地震
一九〇二	一九〇二	7. 佐賀郡久保泉村では、製糸工女養成所を二カ所に設置 1.8 佐賀成美女学校開校 4.1 県立佐賀中学校小城分校を県立小城中学校として開校 12.7 佐野常民没（八一才） ○この年、佐賀郡製糸工女養成所を川上村へ移転し、佐賀製糸場を設立	7. 佐賀郡川上村の川上実業補習学校で開校式 11.21 臨時県会に中止命令（市町村教育費補助費増額修正案問題で） 12. この月、肥前米下落、輸出米検査勧行の声おこる
三〇	三〇	1.26 佐賀郡好生館の発足 6.1 郡制実施 7.14 第一回郡会議員選挙 7.20 武雄・早岐間鉄道開通	1.26 佐賀郡好生館の管理責任を佐賀市郡から県へ移管（医学校は廃止）。（佐賀県立病院好生館の発足） 5.2 佐賀・神埼・小城・三養基四郡連合会は神埼郡脊振村に紅茶、佐賀郡春日村に緑茶の製茶伝習所を開設 5. 清酒「窓乃梅」、京都記念博覧会で有功銀牌賞を受賞 7.14 香椎神社、雨乞いのため沖の島さんへ臨幸 ○ 郡会召集。光野熊藏議員を選出
三一	三一	9.29 実昌庵で村民大会が開かれ、右の村委会決議と徵税令書の取り消しを村長に訴願する 10.10 久保田駅開設（九州鉄道会社）。構内に警察の出張所ができる	9.1 村長は、郡長立ち合いのもとで、右の徵收案（総額八一七円七六銭七厘。一戸当たりにして六五錢五厘）を、村委会は否決 10.10 久保田駅開設（九州鉄道会社）。構内に警察の出張所ができる
三二	三二	7.24 県内暴雨、家屋全壊四八四戸 7.25 コレラ防疫活動で増田敬太郎巡査殉職 9.12 コレラ防疫のため祭典・祝日の催事を禁止 10.1 有田徒弟学校開校式 11.21 臨時県会に中止命令（市町村教育費補助費増額修正案問題で） 12. この月、肥前米下落、輸出米検査勧行の声おこる	7.24 県内暴雨、家屋全壊四八四戸 7.25 コレラ防疫活動で増田敬太郎巡査殉職 9.12 コレラ防疫のため祭典・祝日の催事を禁止 10.1 有田徒弟学校開校式 11.21 臨時県会に中止命令（市町村教育費補助費増額修正案問題で） 12. この月、肥前米下落、輸出米検査勧行の声おこる

年 表

一九〇五	三八	○この年、「千人針」の風習、慰問袋作り始まる
一九〇六	三九	○発表。日露戦争中の女性の心情をうたう
一九〇七	四〇	○大塚楠緒子「お百度詣り」、「太陽」
一九〇八	四一	○祐徳馬車鉄道株式会社開業
一九〇九	四二	○九州鉄道長崎まで開通
一一一	四三	○日本海海戦
一一二	四四	○日露講和条約調印(ポーツマス条約)
一一三	四五	○幼稚園
一一四	四五	○佐賀婦人会が幼稚園を開設—現新道
一一五	四五	○広瀬水力電気株式会社設立(四一年送電開始)
一一六	四五	○県下に大雪害
一一七	四五	○九州鉄道株式会社、国有化(鉄道国有法)
一一八	四五	○小学校令改正(義務教育六年制)
一一九	四五	○県農会主催、篤農家懇談会開催
一一一〇	四五	○小城町外四力村学校組合立小城女学
一一一一	四五	○校開校式
一一一二	四五	○鹿児島本線全通
一一一三	四五	○佐賀日日新聞発刊(福地嘉八) 福日系
一一一四	四五	○種痘法公布
一一一五	四五	○この年生糸の輸出量世界第一位となる(世界の34%)
一一一六	四五	○永里地区に經營農会創設
一一一七	四五	○久保田の小学校(義務教育)も六カ年に延長
一一一八	四五	○前海のカキの養殖研究で、全盛期
一一一九	四五	○南部産業組合設立
一一二〇	四五	○嘉瀬橋、台風で流失
一一二一	四五	○下新ヶ江産業組合設立
一一二二	四五	○新田地区耕地整理組合の発足、認可。嘉瀬川筋の小干拓地を包摶(合併)

西暦	年号	国・県内でのできごと	町内でのできごと
一九〇三	明治三十一年後半	○唐津鉄道株式会社（明治二十二年設立）、九州鉄道株式会社に吸収される	
一九〇四	明治三十二年後半	1. 告虫駆除のため稻株切断・雑草消却命令 4・13 小学校「国定教科書」制度成立 12・13 荻原・久保田開通し唐津線全通、小城公園で落成式	
一九〇五	明治三十三年後半	2・4 肺結核予防法令公布 2・10 ロシアに宣戦布告（日露戦争おこる） 2・23 日韓議定書調印 2・28 佐賀馬車鉄道株式会社開業	
一九〇六	明治三十四年後半	6・23 大洪水、嘉瀬側の堤塘決壊し、嘉瀬橋流失 5. 佐賀市で僧木山定生、出征兵士家族援護の目的で佐賀女子義勇団を組織、各地で同類の組織おこる 11・10 県下各地で農談会開かれる 佐賀市に電話架設される	○ 郡會議員改選で、窓乃梅酒造社長古賀文一郎、石川又八当選 ○ 久保田駅で唐津線に乗降できるようになる ○ 前海のアゲマキ養殖漁業全盛時代（乾製して輸出。大正時代に衰退） ○ 農業改良が叫ばれ、「正条田植え」奨励始まる（先頭に立つたのが、篤農家の白浜与作、古賀房吉、中尾豊太郎など）

年表

西暦	年号	国・県内のできごと	町内のできごと
(事業完成は大正11.1.16)			
一九一〇	四三	4. 小城郡養蚕伝習所の開所式 8.22 韓国併合に関する日韓條約調印 九州帝國大学を設置	3. 嘉瀬橋架け替え竣工。松尾建設施工
一一	九一三	12.22 明治天皇崩御(六歳)、大正と改元 11.15 佐賀市に川上軌道株式会社設立 2.10 佐賀瓦斯株式会社、ガス供給開始 2.12 松田正久、山本内閣の司法大臣として入閣	○ 青藍高等小学校が解散され、思斎小学校に高等科を併設
一二	九一四	11.10 佐賀図書館落成 11.28 大隈重信、願正寺で中学生に講演	○ 五石収穫懸賞会。県で四名の入賞者中、本村の古賀房吉が反当五石一斗一斤の好成績で第三位
一三	九一五	8.23 日本参戦(日独開戦)、青島出兵。 第五五連隊(佐賀市高木瀬)が出動(久保田からも従軍者多数) 8.25 暴風雨全県下に被害、特に有明海沿岸に高潮被害	○ 五石収穫懸賞会。県で四名入賞者中、白浜五石収穫懸賞会。県で四名入賞者中、白浜与作の出身部落、中副青年団が五石五斗二升六合五勺の好成績で第二位に輝く ○ 石川又八、郡議會議長となる
一四	大正元	9.15 青年団体強化の訓令(内務・文部省)	○ 久保田実科女子校が開校 8.25 応召兵士歓送の真最中、高潮襲来。堤塘決壊し、搦部落の東新地、西新地の八十余町歩の稻田、被害甚大
一五	二	8.4 中林梧竹没(八七歳) 8.15 中野致明没(七〇歳)	○ 久保田郵便局、電話業務開始 ○ 原田千之名校長、思斎小学校に着任
一六	九一六	9.11 江藤新平・島義勇に贈位 9.25 西肥銀行設立 11.25 佐賀市水道通水式	○ 恩斎小学校に図書館ができる ○ 思斎小学校に図書館ができる ○ 久保田郵便局、保険業務開始 ○ 久保田久富郵便(当時は「大立野郵便局」)が大字新田一〇〇番地に開局し、為替貯金事業、保険事業、郵便事業を開業
一七	九一七	8.4 川上川官人橋開通式 8.16 中野致明没(七〇歳)	○ 第一三回総選挙で石川又八氏(憲政会)が初當選
一八	九一八	5.4 陶祖先李參平頌徳碑除幕 5.27 結核・トラホーリム予防法公布 8.3 富山県に米騒動、全国に波及 ○ 足踏式脱穀機普及始まる ○ 株価暴落、戦後不況はじまる	○ 久保田宿(三丁樋)(芦刈へ)の直線村道改修工事始まる(大正年間に完成)
一九	九一九	6.28 ベルサイユ条約調印 2.28 (旧制)佐賀高等学校、新築落成	
二〇	九二〇	10.1 第一回国勢調査、県総人口六七万三千人 2.28 ○ 佐賀平野に電力灌漑設備	10.1 久保田村総人口六七三三人、世帯数一二〇人 三 久保田郵便局、電話交換業務開始 ○ 宇治端の駐在所(大立野)できる ○ 西肥板紙株式会社設置(北田)。(上熊本駅北側の工場を移転)

年表

西暦	年号	国・県内でのできごと	町内でのできごと
一九三三	一二	4. 郡制廃止 5. 西肥板紙会社久保田工場操業開始、廢液公害問題化	○ 西肥板紙、操業開始 ○ 電気灌漑事業始まる(これで水喧嘩も止み、足踏水車、不要となる)
一九三〇	一九二九	一九二八	一九二七
一九二九	一九二八	女子青年団に加盟 2. 佐賀高等女学校の修業年限を四年から五年とする 2. 佐賀師範学校に女子専攻科を設置 2. 佐賀郡連合女子青年団発団式	昭和 二元
一九二八	一九二七	11. 10. 28 微古館落成 11. 11. 1 「肥前史談」創刊 11. 7 佐賀軌道電化を決定 1. 5 農村工芸院設立(神埼郡姉川、三十 三年三月廃校)	一五
一九二七	一九二六	2. 16 最初の普通選挙(第一六回総選挙) 6. 25 佐賀馬鉄廃止、バス運転開始 6. 29 治安維持法改正公布 10. 24 ニューヨーク株式暴落、世界恐慌始 まる 日本の失業者は約三二万人と公表 4. 10 佐賀・川上間電車開通 10. 1 国勢調査、県総人口六九万一五六五人 ○ この年、世界恐慌、日本に波及(昭和恐慌)	一四
一九二六	一九二五	3. 6 1. 26 大日本連合婦人会発会式 6. 5 4. 1 佐賀市で初のラジオ聴取 11. 1 博多～東唐津間鉄道全通 「佐賀県青年読本」(佐賀県教育会編)発行 10. 1 国勢調査、県総人口八八万四八三人 2. 11 第一回建国祭	一三
一九二五	一九二四	7. 7 浜崎～虹の松原間鉄道開通 9. 11 暴風雨、県下各地で被害 3. 12 戸上電機製作所設立 8. 6 佐賀市で初のラジオ聴取 11. 1 博多～東唐津間鉄道全通 「佐賀県青年読本」(佐賀県教育会編)発行 10. 1 国勢調査、県総人口八八万四八三人 2. 11 第一回建国祭	一三
一九二四	一九二三	9. 1 関東大震災、死者行方不明約一四万人 4. 小城高等女学校、組合立を県立に移管 5. 天山山頂に阿蘇惟直の墓碑建立(小城晴田青年会)	一三
一九二三	一九二二	7. 7 浜崎～虹の松原間鉄道開通 9. 11 暴風雨、県下各地で被害 3. 12 戸上電機製作所設立 8. 6 佐賀市で初のラジオ聴取 11. 1 博多～東唐津間鉄道全通 「佐賀県青年読本」(佐賀県教育会編)発行 10. 1 国勢調査、県総人口八八万四八三人 2. 11 第一回建国祭	一三

西暦	年号	国・県内でのできごと	町内でのできごと
一九二二	一二	4. 郡制廃止 5. 西肥板紙会社久保田工場操業開始、廢液公害問題化	○ 西肥板紙、操業開始 ○ 電気灌漑事業始まる(これで水喧嘩も止み、足踏水車、不要となる)
一九二一	一九二〇	7. 7 浜崎～虹の松原間鉄道開通 9. 11 暴風雨、県下各地で被害 3. 12 戸上電機製作所設立 8. 6 佐賀市で初のラジオ聴取 11. 1 博多～東唐津間鉄道全通 「佐賀県青年読本」(佐賀県教育会編)発行 10. 1 国勢調査、県総人口八八万四八三人 2. 11 第一回建国祭	一三
一九二〇	一九一九	7. 26 第二回佐賀県水平社大会 5. 20 「農村青年新聞」発刊(中尾都昭) 7. 1 小城郡役所廃止 12. 25 大正天皇崩御、昭和と改元 2. 25 各市町村処女会を女子青年団と改め、県連合女子青年団を設置し、日本連合	一三
一九一九	一九一八	3. 26 大立野に「株式会社石川魚市場」ができる(石川又八による改組) ○ 久保田第二小学校を廃止し、上・下二校合併、建築。一村一校として新田に移す。思斎小学校 ○ 久保田産業組合、事業開始(南部、中副、下新ヶ江の三産業組合は解散) ○ 久保田駅構内にタクシー一台駐留することになる ○ 上・下兩小学校合併に伴つて通学道路の改修始まる ○ 右のタクシー一台追加	一三
一九一八	一九一七	10. 1 久保田郵便局、年金業務開始 10. 1 久保田久富郵便局、郵便年金事業を開業 12. 「赤線バス」(吉村自動車)が久保田駅～大立野間の走行開始	一三
一九一七	一九一六	6. 1 嘉瀬橋、鉄橋に架け替え完成 6. 1 福所江の西肥板紙工場の悪水騒動で沿岸住民・漁業関係者の実力行使(急拠、妥協契約なる) 10. 1 久保田村総人口七一一二人、世帯数一二八〇 10. 1 久保田久富郵便局、郵便年金事業を開業	一三
一九一六	一九一五	6. ○ 嘉瀬橋、鉄橋に架け替え完成 6. 1 福所江の西肥板紙工場の悪水騒動で沿岸住民・漁業関係者の実力行使(急拠、妥協契約なる) 10. 1 久保田村総人口七一一二人、世帯数一二八〇 10. 1 久保田久富郵便局、郵便年金事業を開業	一三
一九一五	一九一四	○ 紙園川堤塘、木島溝付近で決壊。三日月側と水騒動、警察隊出動す	一三
一九一四	一九一三	○ 紙園川堤塘、木島溝付近で決壊。三日月側と水騒動、警察隊出動す	一三

年表

西暦	年号	国・県内のできごと	町内でのできごと
一九三一	七	佐賀市谷口鉄工場閉鎖 満州事変おこる 第一次上海事変おこる	2・20 第一八回総選挙で石川又八氏(立憲政友会)が当選(二度目)
一九三二	八	佐賀市廃火災 佐賀商船学校廃校 国際連盟より脱退	11・7 久保田搦耕地整理組合の設立認可
一九三三	九	佐賀市庁舎火災 佐嘉神社遷座式 佐賀玉屋デパート開業	○ 県農業会、高知式田植記録大会を久保田で開催(優勝は、男子高木瀬村、女子嘉瀬村。)
一九三四	一〇	メートル法の施行五年延期となる	2・25 久保田町搦耕地整理組合、着工す。二二六町歩
一九三五	一一	佐賀農芸学校開校 全市町村に産業組合設置 肥前山口～諫早間鉄道開通 (昭和四年六月起工)	9・19 悪水問題で西肥板紙と漁業組合との補償契約締結
一九三六	一二	佐賀市貫通道路完成 佐賀市営バス運行 佐賀工業学校緑小路に移転 岡田三郎助、第一回文化勲章受賞 蘆溝橋事件(日中戦争始まる) 川上軌道(電車)廃止	○ 大立野～福富間水路新設工事
一九三七	一三	11・19 佐賀市営バス運行開始(運転開業)により、久保田関係では、横江線、新村(嘉瀬)線、久保田線が走る	10・1 久保田村総人口七〇六四人、世帯数一三一
一九三八	一四	佐賀市営バス運行開始(運転開業)により、久保田関係では、横江線、新村(嘉瀬)線、久保田線が走る	○ 久保田村総人口七〇六四人、世帯数一三一
一九三九	一五	佐賀市営バス運行開始(運転開業)により、久保田関係では、横江線、新村(嘉瀬)線、久保田線が走る	○ 久保田村総人口七〇六四人、世帯数一三一
一九四〇	一六	嘉瀬川久保田堰、コンクリート堰に築造竣工(徳万頭着工) 佐賀市営バス運行開始(運転開業)により、久保田関係では、横江線、新村(嘉瀬)線、久保田線が走る 徳万宿～久保田宿の旧道、拡張改修工事始まる 久保田村宮で「久保田搦」二二八町竣工 禅門樋尻の水路改修時、桑畠の地下から弥生式土器発見	1・8 久保田久富郵便局、電信業務、電話業務が開業 ○ 徳万宿～久保田宿の旧道、拡張改修工事竣工
一九四一	一七	久保田久富郵便局、電信業務、電話業務が開業 ○ 徳万宿～久保田宿の旧道、拡張改修工事竣工	1・8 久保田久富郵便局、電信業務、電話業務が開業 ○ 徳万宿～久保田宿の旧道、拡張改修工事竣工
一九四二	一八	久保田久富郵便局、電信業務、電話業務が開業 ○ 徳万宿～久保田宿の旧道、拡張改修工事竣工	1・8 久保田久富郵便局、電信業務、電話業務が開業 ○ 徳万宿～久保田宿の旧道、拡張改修工事竣工
一九四三	一九	久保田久富郵便局、電信業務、電話業務が開業 ○ 徳万宿～久保田宿の旧道、拡張改修工事竣工	1・8 久保田久富郵便局、電信業務、電話業務が開業 ○ 徳万宿～久保田宿の旧道、拡張改修工事竣工
一九四四	二〇	久保田久富郵便局、電信業務、電話業務が開業 ○ 徳万宿～久保田宿の旧道、拡張改修工事竣工	1・8 久保田久富郵便局、電信業務、電話業務が開業 ○ 徳万宿～久保田宿の旧道、拡張改修工事竣工
一九四五	二一	久保田久富郵便局、電信業務、電話業務が開業 ○ 徳万宿～久保田宿の旧道、拡張改修工事竣工	1・8 久保田久富郵便局、電信業務、電話業務が開業 ○ 徳万宿～久保田宿の旧道、拡張改修工事竣工
一九四六	二二	久保田久富郵便局、電信業務、電話業務が開業 ○ 徳万宿～久保田宿の旧道、拡張改修工事竣工	1・8 久保田久富郵便局、電信業務、電話業務が開業 ○ 徳万宿～久保田宿の旧道、拡張改修工事竣工
一九四七	二三	久保田久富郵便局、電信業務、電話業務が開業 ○ 徳万宿～久保田宿の旧道、拡張改修工事竣工	1・8 久保田久富郵便局、電信業務、電話業務が開業 ○ 徳万宿～久保田宿の旧道、拡張改修工事竣工
一九四八	二四	久保田久富郵便局、電信業務、電話業務が開業 ○ 徳万宿～久保田宿の旧道、拡張改修工事竣工	1・8 久保田久富郵便局、電信業務、電話業務が開業 ○ 徳万宿～久保田宿の旧道、拡張改修工事竣工
一九四九	二五	久保田久富郵便局、電信業務、電話業務が開業 ○ 徳万宿～久保田宿の旧道、拡張改修工事竣工	1・8 久保田久富郵便局、電信業務、電話業務が開業 ○ 徳万宿～久保田宿の旧道、拡張改修工事竣工
一九五〇	二六	久保田久富郵便局、電信業務、電話業務が開業 ○ 徳万宿～久保田宿の旧道、拡張改修工事竣工	1・8 久保田久富郵便局、電信業務、電話業務が開業 ○ 徳万宿～久保田宿の旧道、拡張改修工事竣工
一九五一年	二七	久保田久富郵便局、電信業務、電話業務が開業 ○ 徳万宿～久保田宿の旧道、拡張改修工事竣工	1・8 久保田久富郵便局、電信業務、電話業務が開業 ○ 徳万宿～久保田宿の旧道、拡張改修工事竣工
一九五二年	二八	久保田久富郵便局、電信業務、電話業務が開業 ○ 徳万宿～久保田宿の旧道、拡張改修工事竣工	1・8 久保田久富郵便局、電信業務、電話業務が開業 ○ 徳万宿～久保田宿の旧道、拡張改修工事竣工
一九五三年	二九	久保田久富郵便局、電信業務、電話業務が開業 ○ 徳万宿～久保田宿の旧道、拡張改修工事竣工	1・8 久保田久富郵便局、電信業務、電話業務が開業 ○ 徳万宿～久保田宿の旧道、拡張改修工事竣工
一九五四年	三〇	久保田久富郵便局、電信業務、電話業務が開業 ○ 徳万宿～久保田宿の旧道、拡張改修工事竣工	1・8 久保田久富郵便局、電信業務、電話業務が開業 ○ 徳万宿～久保田宿の旧道、拡張改修工事竣工
一九五五年	三一	久保田久富郵便局、電信業務、電話業務が開業 ○ 徳万宿～久保田宿の旧道、拡張改修工事竣工	1・8 久保田久富郵便局、電信業務、電話業務が開業 ○ 徳万宿～久保田宿の旧道、拡張改修工事竣工
一九五六年	三二	久保田久富郵便局、電信業務、電話業務が開業 ○ 徳万宿～久保田宿の旧道、拡張改修工事竣工	1・8 久保田久富郵便局、電信業務、電話業務が開業 ○ 徳万宿～久保田宿の旧道、拡張改修工事竣工
一九五七年	三三	久保田久富郵便局、電信業務、電話業務が開業 ○ 徳万宿～久保田宿の旧道、拡張改修工事竣工	1・8 久保田久富郵便局、電信業務、電話業務が開業 ○ 徳万宿～久保田宿の旧道、拡張改修工事竣工
一九五八年	三四	久保田久富郵便局、電信業務、電話業務が開業 ○ 徳万宿～久保田宿の旧道、拡張改修工事竣工	1・8 久保田久富郵便局、電信業務、電話業務が開業 ○ 徳万宿～久保田宿の旧道、拡張改修工事竣工
一九五九年	三五	久保田久富郵便局、電信業務、電話業務が開業 ○ 徳万宿～久保田宿の旧道、拡張改修工事竣工	1・8 久保田久富郵便局、電信業務、電話業務が開業 ○ 徳万宿～久保田宿の旧道、拡張改修工事竣工
一九六〇年	三六	久保田久富郵便局、電信業務、電話業務が開業 ○ 徳万宿～久保田宿の旧道、拡張改修工事竣工	1・8 久保田久富郵便局、電信業務、電話業務が開業 ○ 徳万宿～久保田宿の旧道、拡張改修工事竣工
一九六一年	三七	久保田久富郵便局、電信業務、電話業務が開業 ○ 徳万宿～久保田宿の旧道、拡張改修工事竣工	1・8 久保田久富郵便局、電信業務、電話業務が開業 ○ 徳万宿～久保田宿の旧道、拡張改修工事竣工
一九六二年	三八	久保田久富郵便局、電信業務、電話業務が開業 ○ 徳万宿～久保田宿の旧道、拡張改修工事竣工	1・8 久保田久富郵便局、電信業務、電話業務が開業 ○ 徳万宿～久保田宿の旧道、拡張改修工事竣工
一九六三年	三九	久保田久富郵便局、電信業務、電話業務が開業 ○ 徳万宿～久保田宿の旧道、拡張改修工事竣工	1・8 久保田久富郵便局、電信業務、電話業務が開業 ○ 徳万宿～久保田宿の旧道、拡張改修工事竣工
一九六四年	四〇	久保田久富郵便局、電信業務、電話業務が開業 ○ 徳万宿～久保田宿の旧道、拡張改修工事竣工	1・8 久保田久富郵便局、電信業務、電話業務が開業 ○ 徳万宿～久保田宿の旧道、拡張改修工事竣工
一九六五年	四一	久保田久富郵便局、電信業務、電話業務が開業 ○ 徳万宿～久保田宿の旧道、拡張改修工事竣工	1・8 久保田久富郵便局、電信業務、電話業務が開業 ○ 徳万宿～久保田宿の旧道、拡張改修工事竣工
一九六六年	四二	久保田久富郵便局、電信業務、電話業務が開業 ○ 徳万宿～久保田宿の旧道、拡張改修工事竣工	1・8 久保田久富郵便局、電信業務、電話業務が開業 ○ 徳万宿～久保田宿の旧道、拡張改修工事竣工
一九六七年	四三	久保田久富郵便局、電信業務、電話業務が開業 ○ 徳万宿～久保田宿の旧道、拡張改修工事竣工	1・8 久保田久富郵便局、電信業務、電話業務が開業 ○ 徳万宿～久保田宿の旧道、拡張改修工事竣工
一九六八年	四四	久保田久富郵便局、電信業務、電話業務が開業 ○ 徳万宿～久保田宿の旧道、拡張改修工事竣工	1・8 久保田久富郵便局、電信業務、電話業務が開業 ○ 徳万宿～久保田宿の旧道、拡張改修工事竣工
一九六九年	四五	久保田久富郵便局、電信業務、電話業務が開業 ○ 徳万宿～久保田宿の旧道、拡張改修工事竣工	1・8 久保田久富郵便局、電信業務、電話業務が開業 ○ 徳万宿～久保田宿の旧道、拡張改修工事竣工
一九七〇年	四六	久保田久富郵便局、電信業務、電話業務が開業 ○ 徳万宿～久保田宿の旧道、拡張改修工事竣工	1・8 久保田久富郵便局、電信業務、電話業務が開業 ○ 徳万宿～久保田宿の旧道、拡張改修工事竣工
一九七一年	四七	久保田久富郵便局、電信業務、電話業務が開業 ○ 徳万宿～久保田宿の旧道、拡張改修工事竣工	1・8 久保田久富郵便局、電信業務、電話業務が開業 ○ 徳万宿～久保田宿の旧道、拡張改修工事竣工
一九七二年	四八	久保田久富郵便局、電信業務、電話業務が開業 ○ 徳万宿～久保田宿の旧道、拡張改修工事竣工	1・8 久保田久富郵便局、電信業務、電話業務が開業 ○ 徳万宿～久保田宿の旧道、拡張改修工事竣工
一九七三年	四九	久保田久富郵便局、電信業務、電話業務が開業 ○ 徳万宿～久保田宿の旧道、拡張改修工事竣工	1・8 久保田久富郵便局、電信業務、電話業務が開業 ○ 徳万宿～久保田宿の旧道、拡張改修工事竣工
一九七四年	五〇	久保田久富郵便局、電信業務、電話業務が開業 ○ 徳万宿～久保田宿の旧道、拡張改修工事竣工	1・8 久保田久富郵便局、電信業務、電話業務が開業 ○ 徳万宿～久保田宿の旧道、拡張改修工事竣工
一九七五年	五一	久保田久富郵便局、電信業務、電話業務が開業 ○ 徳万宿～久保田宿の旧道、拡張改修工事竣工	1・8 久保田久富郵便局、電信業務、電話業務が開業 ○ 徳万宿～久保田宿の旧道、拡張改修工事竣工
一九七六年	五二	久保田久富郵便局、電信業務、電話業務が開業 ○ 徳万宿～久保田宿の旧道、拡張改修工事竣工	1・8 久保田久富郵便局、電信業務、電話業務が開業 ○ 徳万宿～久保田宿の旧道、拡張改修工事竣工
一九七七年	五三	久保田久富郵便局、電信業務、電話業務が開業 ○ 徳万宿～久保田宿の旧道、拡張改修工事竣工	1・8 久保田久富郵便局、電信業務、電話業務が開業 ○ 徳万宿～久保田宿の旧道、拡張改修工事竣工
一九七八年	五四	久保田久富郵便局、電信業務、電話業務が開業 ○ 徳万宿～久保田宿の旧道、拡張改修工事竣工	1・8 久保田久富郵便局、電信業務、電話業務が開業 ○ 徳万宿～久保田宿の旧道、拡張改修工事竣工
一九七九年	五五	久保田久富郵便局、電信業務、電話業務が開業 ○ 徳万宿～久保田宿の旧道、拡張改修工事竣工	1・8 久保田久富郵便局、電信業務、電話業務が開業 ○ 徳万宿～久保田宿の旧道、拡張改修工事竣工
一九八〇年	五六	久保田久富郵便局、電信業務、電話業務が開業 ○ 徳万宿～久保田宿の旧道、拡張改修工事竣工	1・8 久保田久富郵便局、電信業務、電話業務が開業 ○ 徳万宿～久保田宿の旧道、拡張改修工事竣工

西暦	年号	国・県内のできごと	町内のできごと
一九四一	一六	11.23 大日本産業報国会設立 3.1 国民学校令公布	○ 久保田村立恩賜小学校を久保田村立国民学校と改称(注、昭和二十一年に旧称に戻る)
一九四二	一七	7.1 全国の隣組、一斉に常会を開く 8.12.8 米・英に宣戦布告 太平洋戦争始まる 8.15 日新国民学校に反射炉記念碑除幕	○ 西肥板紙悪水問題で、裁判所の仲介斡旋、和解成立
一九四三	一八	8. 中学・高校の学年短縮を閣議決定	○ 西肥板紙株式会社と牛津板紙株式会社と合併して佐賀板紙株式会社と改称
一九四四	一九	1.24 大相撲、佐賀の花優勝(二勝二敗) 2.1 女子挺身隊出動 2.25 神風特別攻撃隊初出撃 B.29 東京を初空襲	○ 久保田村産業組合は農会と合併して久保田村農業会と称す

久保田町史 上巻	
発行	平成十四年(2002)三月三十一日
編集	久保田町史編さん委員会
発行者	久保田町
発行所	佐賀県佐賀郡久保田町新田二〇九一 久保田町企画課 久保田町史編さん事務局
印刷所	伊万里市大坪町乙四一六一一 株式会社 三光

